

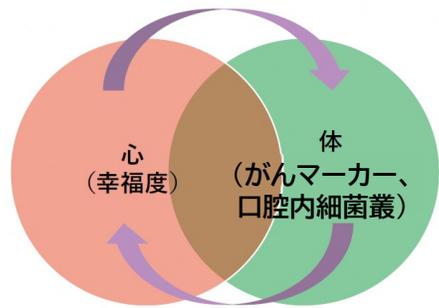
1 実証事業概要

○ がん検診率アップに向け、簡便かつ興味を引く新たな検査方法を模索する。

- ・ 唾液検査と幸福度検診の組み合わせで、がん検診受診率向上の可能性を探る

- ・ 唾液を使った幸福度検診により、幸福度に関連する唾液中の代謝産物を特定し、がんリスク及び口の細菌と、幸福度との関連の有無について明らかにする

- ・ 唾液中の幸福度マーカー（客観的指標）を探索する




 東京医科歯科大学

・ 唾液・口すすぎ液回収
 ・ アンケート実施



研究協力者

・ 唾液中のがんリスク解析
 ・ 口の細菌解析

・ 唾液・口すすぎ液提供
 ・ アンケート提出

2 実施結果

○ 研究対象者の属性
 性別：男40名、女70名 計110名
 平均年齢：男60.1歳、女53歳 全体55.6歳

○ 幸福度と口の細菌
 ・ 主観的な幸福尺度の組み合わせにより、様々な口の細菌の種類が変化する可能性が示唆された。
 ・ 幸福度の高低により細菌の多様性に違いが認められた。

○ 幸福度と唾液中のがん関連代謝産物の濃度（がんリスク）との関連
 ・ 幸福尺度の組み合わせ方を変えて幸福度の高低を分けると、がん関連代謝産物の濃度に大きな違いが認められた。

○ 唾液中の幸福度マーカー（客観的指標）
 ・ 幸福度関連代謝産物の一つと思われる物質について調べたところ、今回用いた幸福尺度のどの組み合わせ方でも、幸福度の高低により明らかな違いが認められなかった。

3 今後の展開

○ 幸福尺度の組み合わせ方で、大きく結果がかわったことから、口の細菌とがんリスクとの関連解析や唾液中の主観的幸福度も考慮し進める。

○ 実証実験で得られたデータを用いて、唾液中の幸福度マーカー（客観的指標）の検討をさらに進め、事業化を目指していく。